



### 20年前のコラムより

今から20年前に書いたコラムを紹介します。前任のホスピス病棟で出会った患者さんから学んだことです。

「医療は治すことが目的でしょう。だから治すことができない患者は、医療の対象ではないと思うのです。あきらめるしかないのでしょうかね。」

鍛冶屋の職人として生きてきたその人は、本当の病名を告げられたとき、そのように感じたと話していました。やがて、ホスピスを紹介され、相談外来を受診後、ホスピスに入院することになりました。そして、入院生活に慣れたある日、次のような話をされました。

「前の病院で医師から2つの選択肢を言われました。副作用のつらい、効果が30%ぐらいの抗がん剤と治療をしないこと。私は安楽死の選択肢を加えても良いと思いました。もし、楽に逝かせてくれるのなら、もう十分に生きたし、死にたいと思いました。そう感じる人もいます。でも、こうしてここにいると、あのとき安楽死を選ばなくて良かったと思えます。

今は看護師さんやお医者さんがとても良くしてくれる。こんな自分でも人間として扱ってくれる。今まで私は、私は機械も人間も同じと思っておりました。だから、治せなければもう医療から見放されたと思っていたのですが、ここでは違う。たとえ治らない私でもきちんと人間として考えてくれる。

そう思うと、今まで考えてきたこととはまったく違うように思えて、だから、今は何もしていない、ぼーっとしているようで、実は充実して満足しているのです。本当に感謝しています。」

こう話をしながら目頭を熱くされておりました。別の日には次のようにも話されていました。

「はじめ、ホスピスは死刑囚の入るところだと思えました。そしてホスピスのスタッフは死刑囚に仕える牧師みたいなものであろうと考えていました。でも、入院してそれが違うことに気がつきました。

みんな気づかってくれて、生まれ変わったようです。死ぬ前にこんな気持ちになれる。なんて自分は幸せなのだろう。このことに気づいて自分が死んでしまえば終わるかと思ったけれど、そうではない。娘や息子たち、そして孫たちまでこのようなことを伝えられる。ホスピスは消えてしまうものではなくて、多くのことを生きている人に伝えることができるのですね。」

やがてその人は、大勢の家族に囲まれる中、穏やかな最期を迎えました。

鍛冶屋の職人として生きてきたその人にとって、機械も人間も治せなければ同じと考えていました。しかし、ホスピス病棟での関わりは、それまでの固定観念を見事に打ち壊しました。たとえ死を目の前にしても、人は笑顔を取り戻すことができます。20年前から、一貫してこだわってきたテーマです。 小澤竹俊

### 第1回 医療デザイン大学 LIVE

第1回 医療デザイン大学 LIVE 医療×デザイン×[変革者]『固定観念をぶちこわそう』が、2020年6月27日(土)午後開催されます。菅原健介さん(株式会社ぐるんとびー 代表取締役)は、あのキャンパス菅原代表の息子さんですが、お母さんのDNAを継いで、1つの枠組みでは収まらない圧倒的なエネルギーを持っています。佐々木裕子さん(株式会社チェンジウェブ代表取締役社長、株式会社リクス代表取締役社長 CEO)は、昨日、打ち合わせではじめてお目にかかりましたが、一言では言い表せないオーラがありました。変革屋として、様々な場面において、従来の古い考え方を新しいものに、変化させる魔法使いのような魅力を感じました。酒井穰さん(株式会社リクス取締役副社長 CSO)も、昨日はじめてお会いしました。佐々木裕さんと共に、変化を促す魔法使いの一人として、特に介護現場で数多くの発信をされています。そして、モデレートされるのは、日本医療デザインの桑畑さんです。彼が、このメンバーをどのように料理するのも楽しみです。

日時:2020年6月27日(土)14時00~16時30分  
会場:上大岡ウィリングとZoomのハイブリッド方式  
申込:Peatix <https://mdu-live-200627.peatix.com>

### 診療実績

	2006- 2019年	2020年 1-2月	3月	4月	5月	2020年 計	総計
訪問回数	81,109	1,506	709	665	562	3,442	84,551
自宅永眠	2,470	34	10	15	15	74	2,544
施設永眠	409	10	7	8	2	27	436
在宅 (自宅+施設)	2,879	44	17	23	17	101	2,980
病院永眠	794	13	7	8	3	31	825